



令和元年10月台風第19号豪雨水害を踏まえた 「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を開始します。

～「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進～

令和元年10月台風第19号豪雨水害では信濃川水系の千曲川上流域から信濃川中流域の広域にわたって甚大な被害が発生したことから、流域内の関係機関が連携して河川整備によるハード対策と地域連携によるソフト対策を一体的かつ緊急的に進めるため、国・県・市町村で構成する「信濃川水系緊急治水対策会議(千曲川)」(令和元年11月29日、令和2年1月24日開催)、「信濃川水系緊急治水対策会議(信濃川中流)」(令和元年12月6日、令和2年1月23日開催)で協議・調整を進め、このたび、「緊急治水対策プロジェクト」の最終とりまとめを発表するものです。

「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト【最終とりまとめ】」の概要

○以下の3つを柱として取り組んでいきます。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進(河川における対策)
- ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進(流域における対策)
- ③減災に向けた更なる取組の推進(まちづくり、ソフト施策)

※詳細については、[北陸地方整備局のホームページ](#)をご覧ください。

(上記をクリックしてご覧いただけます)

同時資料配布
記者クラブ

新潟県政記者クラブ
新潟県政記者クラブ
長野市政記者クラブ
長野県庁会見場

問い合わせ先：

<①信濃川水系緊急治水対策会議(千曲川)【事務局】>

<②信濃川水系緊急治水対策会議(信濃川中流)【事務局】>

国土交通省北陸地方整備局 河川部 (代表：025-280-8880)

①・②河川計画課長 志野 直紀 [ハード対策]

①・②水災害対策センター長 鈴木 忠彦 [ソフト対策]

長野県 建設部 河川課

①課長 吉川 達也 (代表：026-232-0111)

新潟県 土木部 河川管理課

②課長 本田 勝 (直通：025-280-5849)

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

～「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進～

○令和元年10月台風第19号において甚大な被害が発生した、信濃川水系における今後の治水対策を関係機関が連携し、**「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」**を取りまとめました。

○関係機関が連携し、以下の3つの取組を実施し、概ね5年間で「再度災害防止・軽減」、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指します。

①被害の軽減に向けた治水対策の推進 (河川における対策)

■ 信濃川水系では、これまでの観測史上最高水位を更新する大きな洪水が発生し、堤防の決壊、越水が複数発生するなど、現況施設能力を超える事象や河岸侵食による被害が発生。

→被害の軽減に向けた治水対策を加速化し推進を図る。

＜主な取組メニュー＞

- 被災施設等の迅速な復旧
 - ・堤防、護岸、排水機場等の被災施設の復旧
- 河川水位を低下及び洪水流下断面を向上させるための取組
 - ・遊水地等の洪水調整施設の整備
 - ・堤防整備、河道掘削による洪水流下断面の拡大
- 施設規模を上回る洪水に対する取組
 - ・危機管理型ハード対策
- 既存施設を活用した洪水被害軽減対策の取組
 - ・堤防の強化
 - ・霞堤等の遊水機能の保全
 - ・既存施設の活用検討、既存ダム等の洪水調節機能の強化
 - ・堤防等の適切な維持管理



長野市穂保地先の堤防決壊、
浸水被害状況



新潟県小千谷市内における
浸水被害状況

②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進 (流域における対策)

■ 千曲川流域は、周囲を山々に囲まれた急峻な地形のため流出が速く、複数の盆地と山あいの狭窄区間を交互に流下する地形特性から、外水や内水による氾濫被害が発生。

■ 信濃川中流域では、上流の隣接県の洪水の影響も受ける地形特性や大河津分水路に頼る洪水処理により益々下流のリスク増大が懸念される。

→地域及び関係機関が連携して浸水被害の軽減対策について検討し、取組を進める。

＜主な取組メニュー＞

- 流出抑制の取組
 - ・ため池等の既存施設の補強や有効活用
 - ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
 - ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設の整備
- 支川の氾濫抑制、内水被害を軽減する取組
 - ・支川水路における氾濫抑制等
 - ・排水機場等の整備、耐水化の取組
- 大規模災害時における迅速な復旧支援の取組
 - ・防災拠点等の整備



長野県千曲市内における
浸水被害状況



新潟県長岡市内における
浸水被害状況

③減災に向けた更なる取組の推進 (まちづくり、ソフト施策)

■ 千曲川では、堤防からの越水や決壊、支川の氾濫などによる様々な浸水形態により、各住民が適切な避難準備、避難行動等を的確に取ることが困難なところも見受けられた。

■ 信濃川中流では、降雨中又は降雨が収まった後、長い時間をかけて到達する洪水や支川の氾濫など様々な浸水形態により、各住民が適切な避難準備、避難行動等を的確に取ることが困難なところも見受けられた。

→洪水特性を踏まえた、きめ細やかな情報提供等を関係機関が連携し実施する事により、「減災」の取組を推進する。

＜主な取組メニュー＞

- 住まい方の工夫に関する取組
 - ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
 - ・高床式住まいの推進
- 防災教育や防災知識の普及に関する取組
 - ・マイ・タイムラインの普及
- 災害危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組
 - ・公共交通機関との洪水情報の共有
 - ・住民への情報伝達手段の強化



マイ・タイムライン講習会の様子



信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

①被害の軽減に向けた治水対策の推進（河川における対策）

[令和元年10月台風19号豪雨の課題]

●台風19号は広範囲で雨をもたらし、大雨特別警報（1都12県）の豪雨が発生（北陸管内は新潟県、長野県、福島県）。

●信濃川水系千曲川、信濃川中流では、これまでの観測史上最高水位を更新する大きな洪水が発生し、堤防からの越水が複数発生。

●千曲川では堤防の決壊が発生するなど、甚大な被害が発生。

●日本で最も長い信濃川の中流では上流域で降った雨により、洪水が継続し、長時間にわたり高い水位状況となる現象が発生。



長野市穂保地先の堤防決壊、
浸水被害状況



新潟県小千谷市内における
浸水被害状況

[今後の治水対策の方向性]

●被害の軽減に向けた治水対策を加速化し推進を図る。

[主な取組メニュー]

- 被災施設等の迅速な復旧
 - ・堤防、護岸、排水機場等の被災施設の復旧
- 河川水位を低下及び洪水流下断面を向上させるための取組
 - ・遊水地等の洪水調整施設の整備
 - ・堤防整備、河道掘削による洪水流下断面の拡大
- 施設規模を上回る洪水に対する取組
 - ・危機管理型ハード対策
- 既存施設を活用した洪水被害軽減対策の取組
 - ・堤防の強化
 - ・霞堤等の遊水機能の保全
 - ・既存施設の活用検討、既存ダム等の洪水調節機能の強化
 - ・堤防等の適切な維持管理

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト「河川における対策」【目標】

～「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進～

台風19号出水による堤防決壊等の甚大な被害に対し、流域・河川の地形的特性や流域の状況に応じて様々な対策を組み合わせながら、長野県、新潟県、国が連携を強化し、本支川・上下流のバランスを確保しつつ、水系全体で再度災害防止対策に段階的に取り組む。

<達成目標>

観測史上最大洪水となった令和元年10月台風19号出水に対し、
【概ね5年】

<本川> ※国、長野県、新潟県

◆千曲川：大規模な浸水被害が発生した区間等において越水等による家屋部の浸水を防止

◆信濃川：越水等による家屋部の浸水を防止

<支川> ※長野県 ※新潟県

◆田子川、谷川、浅川など：家屋部の浸水を防止又は軽減

◆浄土川：溢水による家屋部の浸水を防止

【概ね10年】

<本川> ※国

◆千曲川：越水等による家屋部の浸水を防止

<対策内容>

◆千曲川・信濃川本川(国、県)では、河道掘削(狭窄部対策)と遊水地等により水位低下させるとともに堤防整備・強化(越水対策、浸透対策等)を実施

◆千曲川の支川(長野県)浅川などでは、排水機場の増強や堤防整備などの内水対策、この他、田子川、谷川などでは河道拡幅など実施

◆信濃川の支川(新潟県)浄土川では、本川の河道掘削による水位低下と合わせ、溢水対策を実施



長野市穂保地先の堤防決壊、
浸水被害状況



新潟県小千谷市内における
浸水被害状況



長野県千曲市内における
浸水被害状況



新潟県長岡市内における
浸水被害状況

流域内の関係機関が連携して河川整備によるハード対策と地域連携によるソフト対策を一体的かつ緊急的に推進を図る

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進（流域における対策）

[令和元年10月台風19号豪雨の課題]

- 信濃川水系千曲川は周囲を山々に囲まれ、急峻な地形、複数の盆地と山あいの狭窄区間を交互に通過。
- 信濃川水系信濃川中流では、上流の隣接県からの洪水の影響を受けることから、下流部へのリスク増大が懸念。
- 令和元年10月台風19号豪雨では、広範囲にわたる豪雨の影響により、長野県、新潟県内の支川や水路等が氾濫し、甚大な浸水被害が発生。



長野県千曲市内における
浸水被害状況



新潟県長岡市内における
浸水被害状況

[今後の治水対策の方向性]

- 地域及び関係機関が連携して浸水被害の軽減対策について検討し、取組を進める。

[主な取組メニュー]

- 流出抑制の取組
 - ・ため池等の既設施設の補強や有効活用
 - ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
 - ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設の整備
- 支川の氾濫抑制、内水被害を軽減する取組
 - ・支川水路における氾濫抑制等
 - ・排水機場等の整備、耐水化の取組
- 大規模災害時における迅速な復旧支援の取組
 - ・防災拠点等の整備

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

③減災に向けた更なる取組の推進（まちづくり、ソフト施策）

[令和元年10月台風19号豪雨の課題]

●信濃川水系千曲川は、堤防からの越水や決壊、支川の氾濫などによる様々な浸水形態により、各住民が適切な避難準備、避難行動等を的確に取ることが困難なところも見受けられた。

●信濃川水系信濃川中流では、降雨中又は降雨が収まった後、長い時間をかけて到達する洪水や支川の氾濫など様々な浸水形態により、各住民が適切な避難準備、避難行動等を的確に取ることが困難なところも見受けられた。



マイ・タイムライン講習会の様子



[今後の治水対策の方向性]

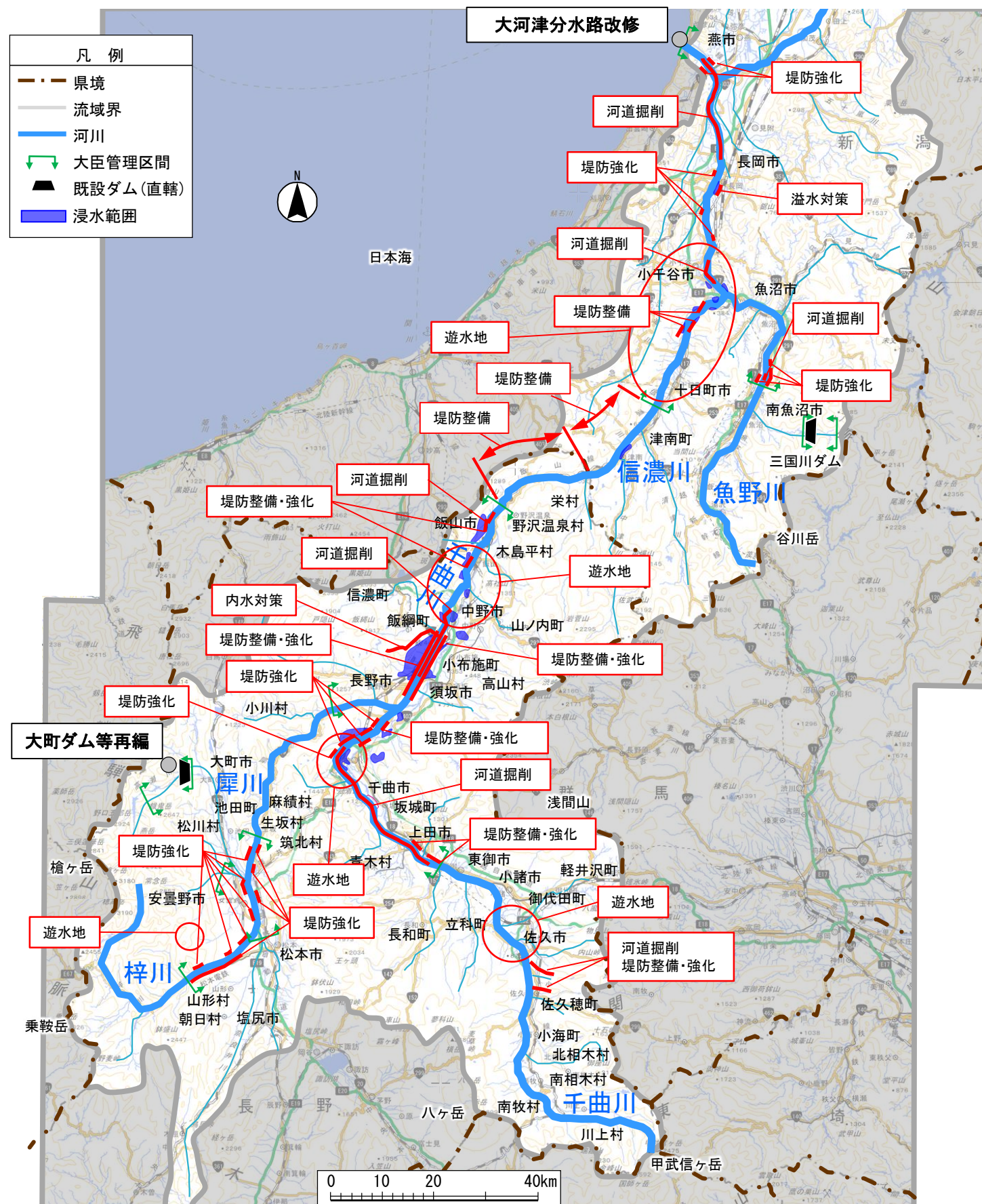
●洪水特性を踏まえた、きめ細やかな情報提供等を関係機関が連携し実施する事により、「減災」の取組を推進する。

[主な取組メニュー]

- 住まい方の工夫に関する取組
 - ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
 - ・高床式住まいの推進
- 防災教育や防災知識の普及に関する取組
 - ・マイ・タイムラインの普及
- 災害危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組
 - ・公共交通機関との洪水情報の共有
 - ・住民への情報伝達手段の強化

～ 「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進 ～

～ 「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進 ～



○令和元年10月台風第19号により、甚大な被害が発生した信濃川水系において国、県、市町村が連携し、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」として取りまとめました。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、概ね5年間で「再度災害防止・軽減」、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指します。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】

③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

■河川における対策

全体事業費 約1,227億円(国事業)

災害復旧 約 214億円

改良復旧 約1,013億円

事業期間 令和元年度～令和9年度

目 標 【令和6年度まで】

台風第19号洪水における

- ・千曲川本川の大規模な浸水被害が発生した区間等において越水等による家屋部の浸水を防止
- ・信濃川本川の越水等による家屋部の浸水を防止

- ・信濃川本川の越水等による家屋部の浸水を防止

【令和9年度まで】

台風第19号洪水における

- ・千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止

対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備・強化

■流域における対策

- ・ため池等既存施設の補強や有効活用
- ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
- ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
- ・排水機場等の整備、耐水化の取組
- ・防災拠点等の整備

- ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保

- ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設

- ・排水機場等の整備、耐水化の取組

- ・防災拠点等の整備

■ソフト施策

- ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
- ・高床式住まいの推進
- ・マイ・タイムラインの普及
- ・公共交通機関との洪水情報の共有
- ・住民への情報伝達手段の強化

- ・高床式住まいの推進

- ・マイ・タイムラインの普及

- ・公共交通機関との洪水情報の共有

- ・住民への情報伝達手段の強化



長野市穂保地先の堤防決壊、
浸水被害状況



新潟県小千谷市内における 浸水被害状況

※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。